

各ワーキング (WG) の活動報告

1. 下野市精神障がい者地域支援 WG 5 3

【日 時】	〈第 10 回〉令和 5 年 11 月 21 日 (火) 10:00~12:00	
	〈第 11 回〉令和 6 年 2 月 29 日 (木) 10:00~11:40	
【場 所】	市庁舎 201 会議室	
【参加者】	◆WADEWADE 訪問看護ステーション下野	◆朝日病院
	◆小山地区精神保健福祉会	◆小山富士見台病院
	◆地域活動支援センターゆうがお	◆市社会福祉課
	◆県南健康福祉センター	◆市障がい児者相談支援センター
	◆栃木県障害者相談支援協働コーディネーター	
	◆精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業密着アドバイザー	

参加者が日々現場で関わっているケースをもとに、現状と課題について協議した。

精神科病院では新型コロナやインフルエンザの影響で、入院中の患者様が外出・外泊をしたあと、個室で一定期間過ごす等の感染対策を実施している。そのためグループホーム等、地域の社会資源を気軽に見学・体験することができない。その他、家族が退院を拒否する、アパートが見つからない、院内で地域移行支援が浸透していない、等の課題があげられた。

第 7 期下野市障がい者福祉計画 (令和 6 年 4 月~令和 9 年 3 月) で、「精神障がい者の地域移行支援の利用 = 5 名」が目標になっていることをふまえ、今後、WG としてもケース支援を実施していく方針となっている。

そのためには、既存のケースについて振り返ることも重要であることから、今回はこれまで地域移行支援を利用したケースについて、改めて検証していく予定。成功・失敗の結果ではなく過程に着目し、良かった点、改善点、地域課題等について協議する。

2. 下野市医療的ケア児等の支援協議 WG

(1) 第 10 回・第 11 回 WG

【日 時】	〈第 10 回〉令和 5 年 9 月 29 日 (金) 10:00~11:30	
	〈第 11 回〉令和 6 年 2 月 8 日 (木) 10:00~11:30	
【場 所】	市庁舎 201 会議室	
【参加者】	◆自治医科大学附属病院	◆市こども福祉課
	◆WADEWADE 訪問看護ステーション下野	◆市健康増進課
	◆県南健康福祉センター	◆市社会福祉課
		◆市障がい児者相談支援センター

医療的ケア児等が保育園を利用できるよう、体制整備について検討している。

令和5年4月時点で、市内には14名（0～16歳）の医ケア児がいる。未就学児は児童発達支援を利用できるが、個別療育が中心となり集団で過ごす機会が少ない。

一方、保育園の看護師配置については、費用面や技術面、心理的負担などが以前から課題としてあげられていたが、本人の成長に伴って医療的ケアが不要になる場合もあり、配置のバランスが取りづらいことも課題となっている。また、医ケア児に関わった経験がない職員が大半であることから、現場の意識醸成も必要ではないかという意見もあがった。

(2) あいせんの森保育園見学

【日 時】 令和6年3月7日（木）10：00～11：30
令和6年3月12日（火）10：00～11：30 } 2班に分けて実施

【場 所】 社会福祉法人ともに あいせんの森保育園（宇都宮市道場宿町）

【参加者】 計16名

- ◆自治医科大学附属病院
- ◆WADEWADE 訪問看護ステーション下野
- ◆県南健康福祉センター
- ◆小児科医
- ◆市こども福祉課
- ◆グリム保育園
- ◆しば保育園
- ◆市社会福祉課
- ◆市障がい児者相談支援センター

医療的ケア児を積極的に受け入れている保育園を見学。今後の取り組みを見据えて、WGメンバー以外の関係機関にも参加していただいた。

あいせんの森保育園は、当初から医ケア児を受け入れる方針で令和4年に開所。現在、園児101名のうち、医ケア児は5名。またASDやADHD等、加配対象になっている児童も8名在籍している。看護師は常勤3名。ケア内容は酸素、吸引、導尿、胃ろうなどで、医ケア児の保護者は全員就労している。

特別な設備はなく、医ケア児は基本的に他の児童と一緒に過ごしている。周囲は自然に受け入れており、積極的にお世話をしようとする児童もいるとのこと。資格に関わらず職員の給与体系は同じで、保育士も内外の各種研修に参加している。保護者や医療機関のほか、くくるん（栃木県医療的ケア児等支援センター）とも連携している。

次回のワーキングでは、見学で得た情報をもとに、下野市の体制整備について改めて意見交換をする予定となっている。